

二月田貝塚
第3次調査

東宮貝塚
第2次調査

平成31年(2019年)3月

宮城県七ヶ浜町教育委員会

二月田貝塚

第3次調査

東宮貝塚

第2次調査

序 文

七ヶ浜町の文化財保護行政に対しましては、日ごろから多大なるご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

松島湾に臨む七ヶ浜町は面積13.19km²と小さい町ですが、国史跡大木囲貝塚をはじめ、数千年前から人々が暮らしてきた生活の痕跡をいたるところで見つけることができる、文化の薫り高い町です。

本書は、二月田貝塚と東宮貝塚の発掘調査報告書です。二月田貝塚では竪穴住居跡や縄文時代の終わり頃の生活道具、東宮貝塚では弥生時代中頃の塩作りの炉跡や当時の生活道具などが見つかり、七ヶ浜における縄文時代の終わり頃と弥生時代中頃の塩作りの様相を明らかにする成果が得られました。こうした成果が地域の歴史解明やまちづくり、地域活性化など様々な場面で活用されることを願っております。

最後に、遺跡の保存に理解を示され、発掘調査に際しては多大なるご協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際の調査にあたられた皆様に対して、厚く御礼申し上げます。

平成31年3月

七ヶ浜町教育委員会
教育長 武田光彦

例　　言

1. 本書は、七ヶ浜町教育委員会が昭和63年度に実施した町道七ヶ浜縦断線側溝設置工事に伴う二月田貝塚第3次調査及び平成29年度に実施した個人住宅建替工事に伴う東宮貝塚（鳳寿寺貝塚）第2次調査の報告書である。尚、個人住宅建替工事にかかる調査は公費負担により実施した。

2. 二月田貝塚の整理作業、東宮貝塚の発掘調査及び整理作業は七ヶ浜町教育委員会が主体となり、生涯学習課文化財係が担当した。職員の体制は下記のとおりである。

教　育　長　武田　光彦

生涯学習課長　鈴木　雅浩

文化財係長　菊池　克宏（平成29年度）

参事兼歴史資料館長（文化財係事務取扱） 小野　豊（平成30年度）

主　任　主　查　田村　正樹

非常勤職員　鈴木　喜雄・小澤　恵・木村　由美子（平成29・30年度）

東宮貝塚発掘作業員　赤間　正雄・矢本　聰子・吉田　麻美（平成29年度）

室内整理作業員　赤間　正雄（平成29年度）・矢本　聰子（平成29年度）

吉田　麻美（平成29・30年度）

3. 発掘調査および資料整理と報告書の作成に際し、以下の諸機関・諸氏よりご指導・ご助言ならびにご協力を賜った。ここに記して、心より謝意を表します。（五十音順・敬称略）

阿部貴英、斎藤和機（宮城県教育庁文化財課）、佐藤祐輔（仙台市絹文の森広場）、豊村幸宏（宮城県教育庁文化財課）、瀬戸博之

宮城県教育庁文化財課、有限会社遠藤工務店、タマホーム株式会社

4. 東宮貝塚の発掘調査において、現場写真撮影、遺構平面図等の作成の際に下記の機材等を使用した。

カメラ:Nikon D90／レンズ:AF-S NIKKOR 18-105mm（撮影素子サイズ:23.6×15.8mm、有効画素数：12.9メガピクセル）

遺構実測支援システム：CUBIC社製 遺構くんver.2017

5. 本書に掲載した遺構実測図等のトレース、画像処理等には下記のソフトウェアを使用した。
Adobe Illustrator CC 2019／Adobe Photoshop CS6

6. 第1図の七ヶ浜町内及び周辺の遺跡位置図は、国土地理院発行1/25,000地形図「塩釜」を複製・加工して使用した。

7. 本書で使用した遺構記号は下記のとおりである。

S I：堅穴建物跡、S L：製塩遺構、S X：土坑、性格不明遺構

8. 各調査区の層序は算用数字で表記した。また、土層断面図では、下記の略号を使用して記載した。

P：土器、S：礫

9. 調査区・遺構平面図、土層断面図等にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下の通りである。

調査区・遺構平面図：1/100、1/150、1/1000　土層断面図：1/40、1/60

10. 遺構堆積土・埋土等の土色・土性の記述については、「新版標準土色帖」（小山・竹原2011）に基づいて記述を行った。

11. 遺物図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下の通りである。

土器：1/1、1/2、1/3、1/4　土製品：1/2　石器・石製品：1/1、1/2、1/3　骨角牙製品・貝製品：1/2、1/3

12. 土器実測図のうち、土師器内面にスクリーントーン（黒色・透明度30%）が貼り付けてあるものは黒色処理がされていることを示す。また、縄文土器外面にスクリーントーン（赤色・透明度30%）が貼り付けてあるものは赤色顔料が塗布されていることを示す。
13. 遺物写真図版の縮尺は、土器の立面・俯瞰、土製品・石器・石製品・骨角牙製品・貝製品の俯瞰すべて、1/1、1/2、1/3である。
14. 遺物の寸法は一部から復元したものや破損により正確な数値ではないものに（　）を付した。また、長さ及び重さの単位は「cm」、「g」である。
15. 遺物の写真撮影は、株式会社アートプロフィールに委託した。
16. 東宮貝塚出土炭化物の放射性炭素年代測定は、株式会社加速器分析研究所に委託した。
17. 写真図版の二月田貝塚1・2次調査及び東宮貝塚1次調査（宮城県塩釜女子高等学校社会部による調査）の記録写真は、後藤勝彦氏による撮影である。
18. 本書に掲載した遺構実測図のトレース、遺物実測図の作成およびトレース、遺物拓本、図版レイアウトなどは田村正樹・矢本聰子・吉田麻美が担当した。
19. 本書の執筆は田村正樹が担当し、校正・照合を矢本聰子・吉田麻美が補助した。
20. 東宮貝塚発掘調査の成果については、下記においてその概要を公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合には、本書がこれらに優先する。

平成29年度 宮城県遺跡調査成果発表会（紙上発表）「東宮貝塚」

平成29（2017）年12月10日 会場：せんだいメディアテーク 主催：宮城県考古学会

21. 二月田貝塚1・2・4次調査及び東宮貝塚1次調査の成果については、以下においてすでに公表している。

[二月田貝塚 1次調査]

宮城県塩釜女子高等学校社会部 1970「宮城県七ヶ浜町吉田浜二月田貝塚発掘調査報告」「貝輪」6号 ※後藤勝彦 2013『仙台湾沿岸貝塚の基礎的研究V－その他の貝塚・製塩遺跡－』に再録

[二月田貝塚 2次調査]

宮城塩釜女子高等学校社会部 1972「宮城県七ヶ浜町二月田貝塚第二次発掘調査報告」「貝輪」7号 ※後藤勝彦 2013『仙台湾沿岸貝塚の基礎的研究V－その他の貝塚・製塩遺跡－』に再録

[二月田貝塚 4次調査]

七ヶ浜町教育委員会 2016『七ヶ浜町震災復興事業関連遺跡調査報告1 平成24～26年度・27年度(1)東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う発掘調査報告書』七ヶ浜町文化財調査報告書第11集

[東宮貝塚 1次調査]

宮城県塩釜女子高等学校社会部 1965「七ヶ浜町東宮鳳寿寺貝塚調査報告」「貝輪」2号
※後藤勝彦 2013『仙台湾沿岸貝塚の基礎的研究V－その他の貝塚・製塩遺跡－』に再録

22. 引用文献及び本書執筆にあたり参考とした文献については、巻末に一括して掲載した。
23. 発掘調査に伴う出土遺物及び図面・写真等の調査記録資料については、七ヶ浜町教育委員会が管理し、七ヶ浜町歴史資料館で一括保管している。

目 次

序 文 ・ 例 言 ・ 目 次

はじめに	1
七ヶ浜町内の遺跡と地理的・歴史的環境	1
二月田貝塚 第3次調査	5
1 遺跡の概要	7
2 調査の方法と経過	7
3 発見した遺構と遺物	14
(1) S I 1 堅穴住居跡	14
(2) S X 1 土坑	15
(3) 遺物包含層	15
i) 堆積状況	15
ii) 土器	15
iii) 石器	15
iv) 骨角製品	15
(4) 遺構外出土遺物	34
(5) トレンチ外出土遺物	46
i) 土器	46
ii) 石器	46
iii) 土製品	46
iv) 骨角牙製品	46
v) 貝製品	55
4 総括	55
(1) 考察	55
i) 土器	55
ii) 製塙土器	58
iii) 貝製品	59
iv) 動物遺存体	59
(2) まとめ	64
写真図版	
写真図版1 二月田貝塚1・2次調査(1)	65
写真図版2 二月田貝塚1・2次調査(2)	66
写真図版3 二月田貝塚3次調査 遺跡空撮・調査区全景・Aトレンチ	67
写真図版4 二月田貝塚3次調査 A～Cトレンチ	68

写真図版5	二月田貝塚3次調査 D・Eトレンチ	69
写真図版6	出土遺物（1）土器	70
写真図版7	出土遺物（2）土器	71
写真図版8	出土遺物（3）土器	72
写真図版9	出土遺物（4）土器	73
写真図版10	出土遺物（5）土器・石器・石製品	74
写真図版11	出土遺物（6）石製品・土製品・骨角製品	75
写真図版12	出土遺物（7）骨角牙製品・貝製品	76

東宮貝塚 第2次調査	77
1 遺跡の概要	79
2 調査の方法と経過	79
3 発見した遺構と遺物	84
(1) S L 1 製塩遺構	84
(2) 1次調査トレンチ（Bトレンチ）	85
(3) 石組遺構	85
(4) 貝層	85
(5) 炭化物集中遺構	85
(6) 出土遺物	85
i) 土器	85
ii) 石器・骨角貝製品	95
iii) 動物遺存体	95
4 自然科学分析	96
東宮貝塚出土炭化物における放射性炭素年代測定（AMS測定）	96
5 まとめ	101

写真図版

写真図版1	東宮貝塚1次調査	102
写真図版2	東宮貝塚2次調査（1）	103
写真図版3	東宮貝塚2次調査（2）	104
写真図版4	東宮貝塚2次調査（3）・出土遺物（1）土器	105
写真図版5	出土遺物（2）土器	106
写真図版6	出土遺物（3）土器・石器・骨角製品・貝製品	107

引用・参考文献	108
---------	-----

報告書抄録

はじめに

七ヶ浜町内の遺跡と地理的・歴史的環境

七ヶ浜町は宮城県の中南部、松島湾の南側を画するように突き出た半島（七ヶ浜半島）に位置する。町域は東西約4.5km、南北約4.5kmで、面積は13.19km²と東北地方で最も面積の小さい自治体である。町の北側は松島湾、南・東側は太平洋に面しており、西側は仙台市、多賀城市、塩竈市と接している。古くから沿岸部の7つの地区（湊浜・松ヶ浜・菖蒲田浜・花瀬浜・吉田浜・代ヶ崎浜・東宮浜）に集落が点在し、海苔養殖や近海漁業などの水産業が盛んで、北洋サケ・マス漁発祥の地として知られる。また、沿岸部の多くが特別名勝松島の指定地となっており、松島四大觀の一つである多聞山をはじめ、多くの展望地から湾内に浮かぶ島々と松林が織りなす美しい景観を眺めることができる。

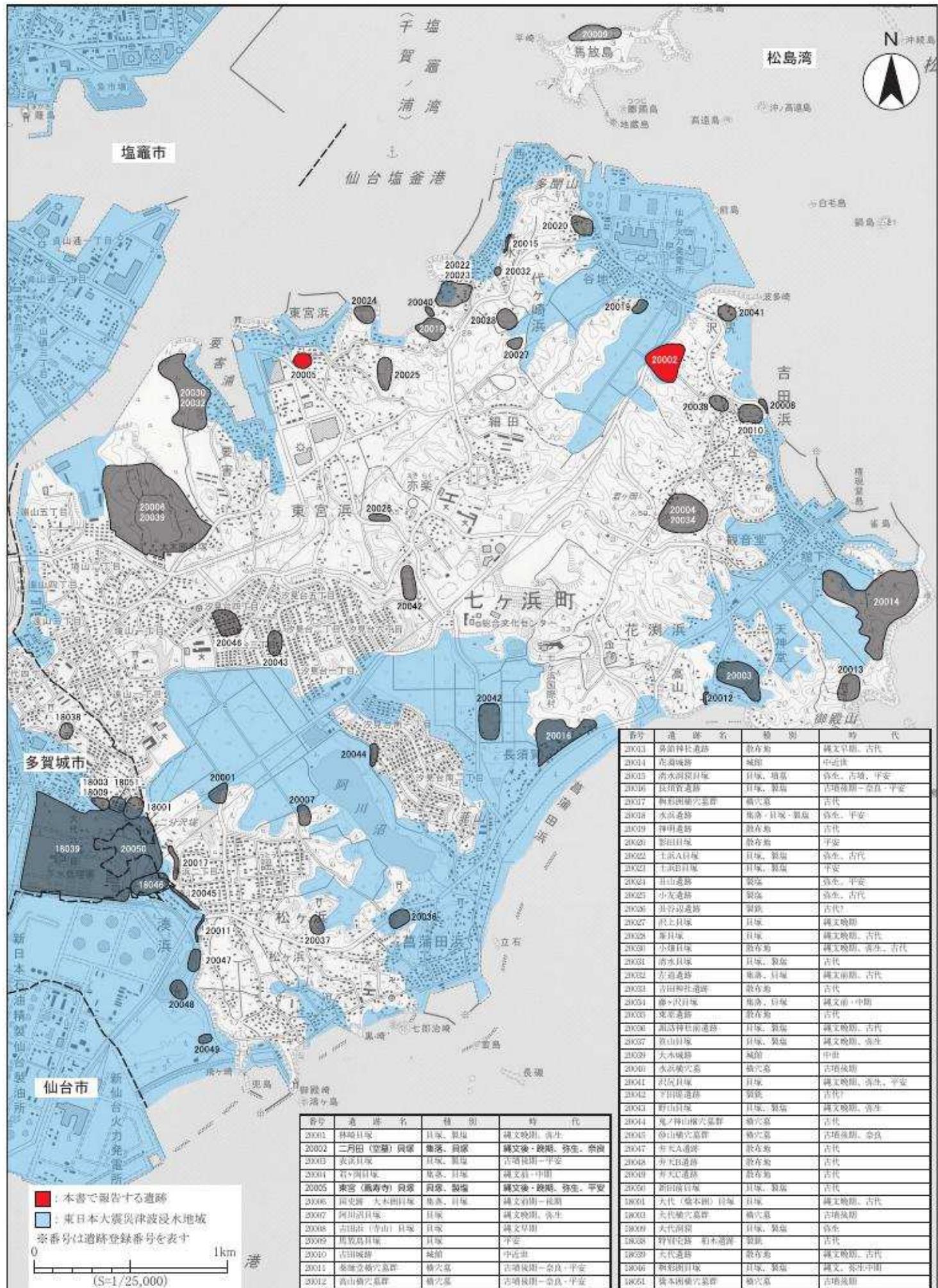
町の中央部には塩竈市及び多賀城市北部から連なる標高40~50mの定高性を示す丘陵が続いている。海岸付近の丘陵端部では比高20m程の急崖が確認される。丘陵裾部には浜堤及び後背湿地などの沖積低地が発達し、農地や宅地として利用されている。町域の西側には、江戸時代（寛文~延宝年間）に開削された貞山堀（御舟入堀）が南北に通っており、半島は陸地と分断されて島状を呈している。町内の埋蔵文化財包蔵地は、国史跡大木闕貝塚をはじめ、縄文時代から中世まで46か所が知られており、これらは丘陵の平坦部や緩斜面、海岸部の低地、砂浜、海蝕洞窟などに所在している（第1図）。以下、各時代における七ヶ浜半島の様相を概観する。

縄文時代

宮城県では縄文時代に属する貝塚が約220か所確認されおり、全国有数の縄文貝塚密集地域として知られている。その多くは松島湾を含む仙台湾沿岸、三陸沿岸、阿武隈川下流域の内陸部、北上川中・下流域の内陸部の4つの地域に集中している。特に松島湾沿岸には、大木闕貝塚や里浜貝塚など学史的に有名な貝塚が多数所在している。湾内の貝塚は規模が大きく、多様かつ豊富な遺物を含むことから、明治・大正時代から多くの研究者による調査・研究が行われ、その成果は土器編年研究や貝塚研究に大きく貢献してきた。

町内では草創期の遺跡は現在のところ確認されていない。早期中葉になると、吉田浜貝塚（寺山貝塚）が登場するが早期の遺跡は少ない。前期初頭以降に遺跡が増加し、中期末までこの傾向が続く。前・中期の遺跡としては、東宮浜地区の大木闕貝塚、左道遺跡、花瀬浜地区の藤ヶ沢貝塚、君ヶ岡貝塚などが挙げられる。吉田浜貝塚は松島湾内で現存最古の貝塚として知られ、調査ではアサリ主体、カキ主体とする2つの貝層が検出され、早期中葉～後葉の貝殻文土器、条痕文土器が出土している（後藤1968）。左道遺跡では、アサリとカキを主体とする貝層や竪穴住居跡5棟、土壙墓1基などを検出し、前期初頭（上川名式）の土器などが出土した（七ヶ浜町教育委員会1991、後藤2005）。大木闕貝塚は標高約40mの丘陵上に営まれた前期前葉～後期初頭の拠点的集落で、縄文前期・中期における東北地方中・南部の土器型式である「大木式土器」の標式遺跡として有名な遺跡である。1968（昭和43）年に国史跡の指定を受けている。

後期から晩期の遺跡としては、東宮浜地区の東宮貝塚（鳳寿寺貝塚）、代ヶ崎浜地区の沢上貝塚、峯貝塚、吉田浜地区の二月田貝塚（空墓貝塚）、沢尻貝塚、菖蒲田浜地区の阿川沼貝塚、諏訪神社前遺跡、松ヶ浜地区の林崎貝塚、笹山貝塚、汐見台地区の鬼ノ神山貝塚などが挙げられる。後・晩期の拠点的な集落として二月田貝塚が七ヶ浜半島の東部に営まれ、土器製塩が盛んになる晩期中葉以降、林崎貝塚や鬼ノ神山貝塚など丘陵裾部の汀線付近に製塩等の作業場と考えられる遺跡が増加する。林崎貝塚では、晩期中葉（大洞C2式期）の製塩に関わる硬く締まった灰層や遺物包含層、貝類を廃棄



第1図 七ヶ浜町内および周辺の遺跡

した土坑などを検出している（七ヶ浜町教育委員会2016）。鬼ノ神山貝塚では、晩期後葉（大洞A式期）の製塩炉と考えられる焼碟群が複数発見され、周辺から製塩土器片が多数出土している（七ヶ浜町教育委員会1982）。

遺跡の立地を見ると、早～中期の遺跡は標高30～40mの丘陵平坦部や緩斜面に立地する傾向が強く、後・晩期の遺跡は、標高5～20mの丘陵端部や海岸部の低地に立地する遺跡が多い。こうした立地の違いは、海平面の変動による汀線の変化や生業形態の違いなど、各時期の様々な事柄と深く関連しているためと考えられる。

弥生時代

弥生時代には遺跡数が減少し、貝塚の規模も縮小する傾向が見られる。縄文時代晩期中葉以降、それまで丘陵頂部や集落周辺の斜面に見られた貝塚が、汀線近くの海岸低地や海蝕洞窟に小規模な貝塚が形成されるようになり、貝塚の立地や規模に変化が見られる（菅原2005）。遺跡の立地は海岸部の低地や低位の段丘面など、縄文時代晩期の立地のあり方を踏襲しているが、製塩等の作業場として海蝕洞窟を利用する例が散見され、新たな土地利用の動きが見られる。

隣接する多賀城市大代地区に中期の「柵形式」の標式遺跡である樹形圓貝塚が所在するなど、町内でも中期前葉～中葉の遺跡が多い。町内の遺跡としては、東宮浜地区の東宮貝塚（鳳寿寺貝塚）、水浜遺跡、代ヶ崎浜地区の清水洞窟貝塚、吉田浜地区の二月田貝塚（空墓貝塚）、松ヶ浜地区の林崎貝塚、汐見台地区の鬼ノ神山貝塚などが挙げられる。清水洞窟貝塚は海蝕洞窟を利用した遺跡で、柵形式の土器を中心に縄文時代晩期～古代の製塩土器、骨範などが出土している（大場1943・1948、七ヶ浜町教育委員会2010）。二月田貝塚では中期前葉から中葉を主体とする遺物包含層が検出され、異形土器、クルミやトチなどの植物遺存体が出土した（七ヶ浜町教育委員会2016）。

古墳時代～平安時代

七北田川下流から河口に位置する多賀城市や利府町では、円墳や中小の円墳からなる古墳後期の古墳群が築造され、古墳周辺の集落跡からも古墳前期～後期の遺物が出土している。近年では仙台市沼向遺跡の調査成果から古墳時代の景観復元も試みられている（仙台市教育委員会2010）。町内ではこれまで古墳時代の遺跡の調査例が少なく不明な点が多くあったが、近年の調査で長須賀遺跡から古墳後期の底部穿孔壺が出土し、表浜貝塚から古墳後期の小規模な貝塚が確認されるなど、古墳後期の様相が徐々に明らかになっている。

町内には、湊浜地区の柵形圓横穴墓群（7世紀末～10世紀）、砂山横穴墓群（7世紀後半～8世紀初頭）、薬師堂横穴墓群、花渕浜地区の高山横穴墓群、東宮浜地区の水浜横穴墓など多数の横穴墓が点在している。これら横穴墓の多くは、海蝕や風化による崩落、倉庫や防空壕への転用といった後世の改変を受けており、築造当初の姿をとどめているものは少ない。湊浜地区の横穴墓群は多賀城市大代地区の大代横穴墓群から湊浜地区の沿岸部まで続く丘陵斜面部に築かれた本町最大規模の横穴墓群である。砂山横穴墓群では13基の横穴墓が確認され、土師器、須恵器、直刀、ガラス玉などが出土した（宮城県教育委員会1976）。高山横穴墓群では15基以上の横穴墓が確認され、横穴墓の羨道部から板状耳付壺や長頸壺などが出土している（七ヶ浜町教育委員会 2016）。清水洞窟貝塚では海蝕洞窟を墓域として利用しており、昭和17（1942）年の調査では幼児を含む26体の人骨が出土した。

奈良・平安時代は東宮浜地区の東宮貝塚（鳳寿寺貝塚）や左道遺跡、水浜遺跡、花渕浜地区の長須賀遺跡や表浜貝塚、汐見台地区の鬼ノ神山貝塚などがある。これらは海岸に面する緩斜面や海岸の背後地などに立地している。表浜貝塚では「宮木」の刻書土器が出土した。8世紀前半～中頃の「宮城郡」の成立や「宮木」から「宮城」への表記の移行に関する重要な資料である（七ヶ浜町教育委員会

2016)。水浜遺跡では平安時代の堅穴住居跡3棟と掘立柱建物跡1棟、製塙炉13基を検出した(七ヶ浜町教育委員会1993)。左道遺跡では平安時代の堅穴住居跡が32棟確認されている(七ヶ浜町教育委員会1992)。清水洞窟貝塚や表浜貝塚では開窓式離頭鍛が出土しており、海産資源を積極的に利用していたこともうかがえる。また、東宮貝塚や表浜貝塚では集落内の祭祀・儀礼の様相を知る資料としてト骨片が出土している。

花渕浜地区の鼻節神社(町指定文化財)には、周辺で採れた昆布やアワビなどの海産物を陸奥国府多賀城へ供給する「厨」の印である青銅製の「国府厨印」が伝わっている。この古印は町指定文化財に指定されており、古代の七ヶ浜と陸奥国府多賀城との関係を伝える貴重な資料である。

鎌倉時代～近代

鎌倉時代以降の遺構・遺物は少ないが、湊浜地区の湊浜薬師堂の石窟仏(町指定文化財)は中世の信仰の様相を伝える資料である。石窟仏は平安時代末から鎌倉時代前半の作とされる7体の薬師如来坐像で、薬師堂横穴墓群を構成する横穴墓の一つであった洞窟の奥壁に彫られたものである。現在はこのうち4体が現存し、慈覚大師(円仁)が一夜で彫ったという伝承が残る。また、薬師如来坐像の間には14世紀頃と考えられる五輪塔の彫刻も残る。境内には円仁お手植えの伝承が残るカヤの大木が現生している。代ヶ崎浜地区には、梵字により阿弥陀曼荼羅が描かれ、建治三(1277)年の銘を持つ町内最古の石碑「建治三年銘古碑」(町指定文化財)があり、当時の民間信仰を伝える資料である。

中世の城館跡としては、町東部の海岸段丘上に築かれた花淵城跡(花渕浜地区)、吉田城跡(吉田浜地区)がある。花淵城跡は留守氏の家臣である花淵紀伊の居城とされ、漁業の振興と鼻節神社の保護を行ったとされる。また、吉田城跡は同じく留守氏の家臣の吉田右近の居城とされる。ともに詳細な調査が行われていないため、縄張りなどについては不明である。

江戸時代に行われた貞山堀(御舟入堀)の整備や七北田川の改修は、七ヶ浜周辺の交通や物流に大きな変化をもたらした。貞山堀は江戸・明治時代にかけて阿武隈川河口から旧北上川河口を結ぶ運河として順次整備された、全長約42kmにも及ぶ全国最長の運河である。寛文13(1673)年頃に、町の西部を南北に貫く御舟入堀が開通し、これ以後七ヶ浜半島は陸地から分断される形となった。その直前の寛文10(1670)年には、七北田川の河口を当町湊浜から蒲生村(仙台市宮城野区蒲生)に付け替える工事が完了しており、長く七北田川河口の港として栄えた湊浜周辺が衰退するなど、七ヶ浜周辺の状況は大きく変化した。

明治22(1889)年には集落が点在する7つの浜を合わせ、七ヶ浜村が誕生した。昭和34(1959)年には町制を施行し、現在に至っている。七ヶ浜村誕生前年の明治21(1888)年には東北地方で最初、全国で3番目の海水浴場として菖蒲田海水浴場が開設した。翌年以降、花渕浜高山・戸谷場地区の高台に高山外国人別荘地が順次整備された。これを契機に別荘地を訪れる外国人と地域住民の交流が始まり、現在七ヶ浜町は国際交流の町として知られている。

に　　が　　で　　かい　　づか
二月田貝塚

第3次調査

調　　査　　要　　項

遺跡名：二月田貝塚（空墓貝塚）（宮城県遺跡地名表登録番号：20002）

所在地：宮城県宮城郡七ヶ浜町吉田浜字二月田、新二月田、新南谷地

調査原因：町道七ヶ浜縦断線側溝設置工事

調査主体：七ヶ浜町教育委員会

調査担当：七ヶ浜町教育委員会 社会教育課 文化財係 川村 正、芳賀 英実、熊谷 信一

調査期間：昭和63（1988）年11月1日～11月30日

調査面積：約250.75m²

1 遺跡の概要

二月田貝塚は七ヶ浜町吉田浜字二月田、新二月田、新南谷地に所在する縄文時代後期中葉～晩期末葉、弥生時代中期、平安時代の複合遺跡である。縄文時代後・晩期には七ヶ浜半島の拠点的な集落であったと考えられる。遺跡は標高10～20m程の丘陵上から標高2m前後の低地にかけて立地し、現在は主に畑地や水田として利用されている。

太平洋戦争以前の調査は不明であるが、戦後最も古い調査は、昭和23（1948）年頃の宮城師範学校地歴科専攻の学生によって組織された考古学同好会による調査である（第1表、後藤2013）。山内清男による直接指導を受けた加藤孝（宮城学院大学）、小野力（柴田農林高校）、大塚徳郎（宮城師範大学）の指導による調査であったが、調査地点や内容については不明である。その後、昭和44・45（1969・70）年に「縄文時代の食生活」の研究の一環で宮城県塩釜女子高等学校社会部（以下、塩釜女子高校社会部）による調査が行われた（写真図版1・2）。2次にわたる調査では、丘陵上と低地の計5か所の調査が行われ、アサリを主体とする貝層や縄文晚期後葉（大洞A式）の製塩遺構や土壙墓（写真図版1-7、1-8、2-1）などが検出され、遺物は縄文時代後期末～晩期初頭と晩期後葉の土器、製塩土器、骨角製品、貝製品などが出土した。口唇両端に三角形の線刻が施された大洞B式期の中空土偶（写真図版2-6）やヘビまたはタツノオトシゴを模した指輪形骨角製品（大洞B式）、顔面彫刻付彌形角製品（写真図版2-5）など特徴的な遺物も出土している。指輪形骨角製品については、里浜貝塚西畠地区南区32層や西の浜貝塚から類似した鹿角製装身具が出土している（鳴瀬町教育委員会1998、松島町教育委員会2009）。4次調査では、丘陵南側の谷地で弥生時代中期前葉から中葉を主体とする遺物包含層を検出し、縄文土器、弥生土器、製塩土器、玉象嵌土製品、クルミやトチなどの植物遺存体などが出土した（七ヶ浜町教育委員会2016）。特に、玉象嵌土製品は両端と中央部に緑色の管玉を象嵌したもので、宮城県内では類例がない資料である。縄文時代晩期中葉～後葉（大洞C2式新段階～A式、聖山I・II式）の北海道・東北地方北部で同様の土製品が複数出土していることから、これらの地域に系譜がある資料と考えられる（児玉1998、市川2016）。

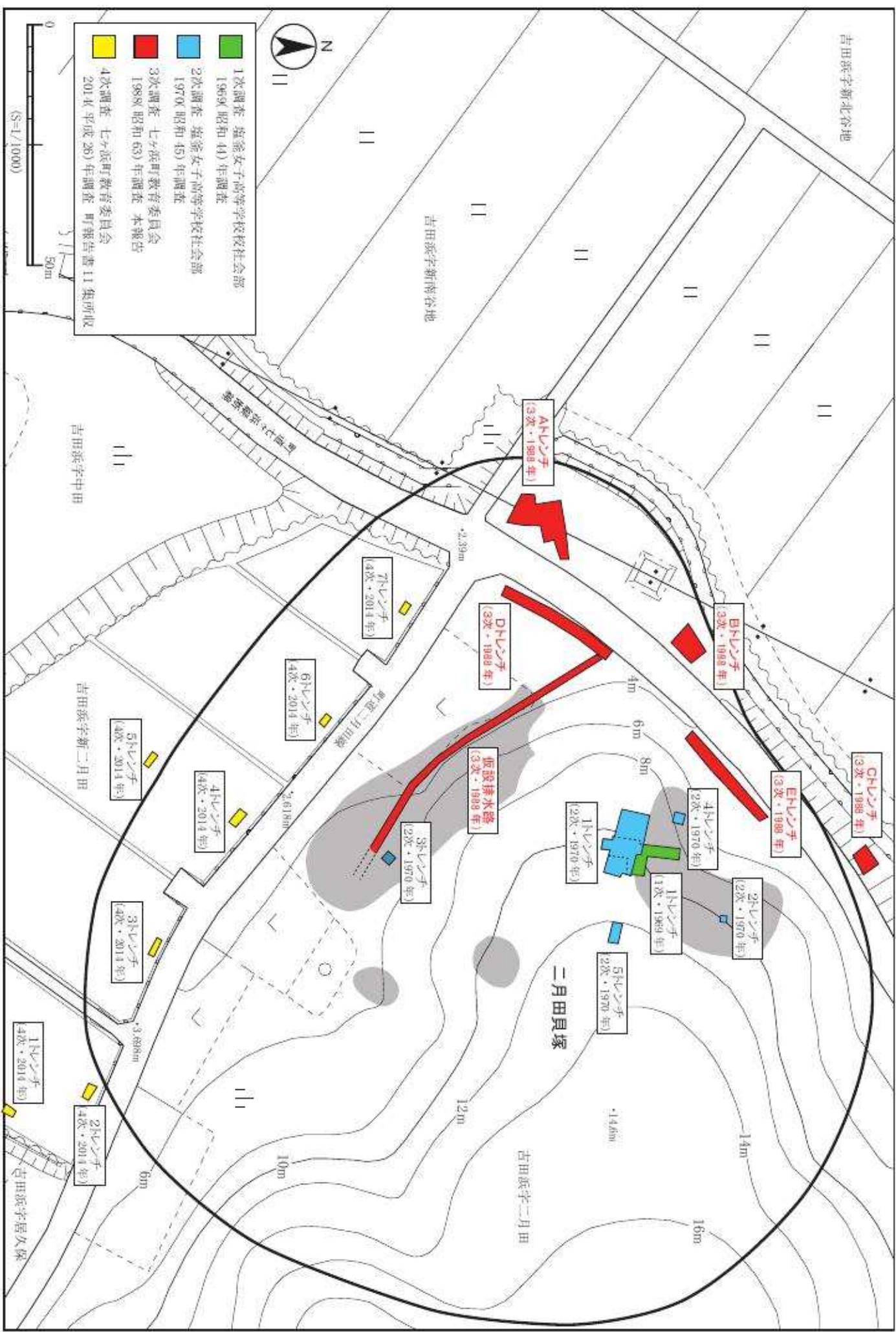
調査 次数	調査目的	調査年	調査主体	遺構・出土遺物等	出典・報告書籍
-	学術調査	1948年頃	考古学同好会 ※宮城師範学校 地歴科専攻生	不明	後藤勝彦2013
1次	学術調査	1969年7月23日～8月1日	塩釜女子高等学校 社会部	竪穴建物跡、製塩遺構、土壙墓、 遺物包含層、縄文土器（晩期）、 製塩土器、石器、骨角牙製品、 動物遺存体ほか	塩釜女子高等学校 社会部1970
2次	学術調査	1970年7月28日～8月5日	塩釜女子高等学校 社会部		塩釜女子高等学校 社会部1972
3次	町道側溝設置	1988年11月1～11月30日	七ヶ浜町教育委員会		本書報告
4次	農山漁村地域復興 基盤総合整備事業	2014年10月15日～11月21日	七ヶ浜町教育委員会	遺物包含層、縄文土器、弥生土器、 製塩土器、動物・植物遺存体	七ヶ浜町教育委員会 2016

第1表 二月田貝塚における発掘調査歴

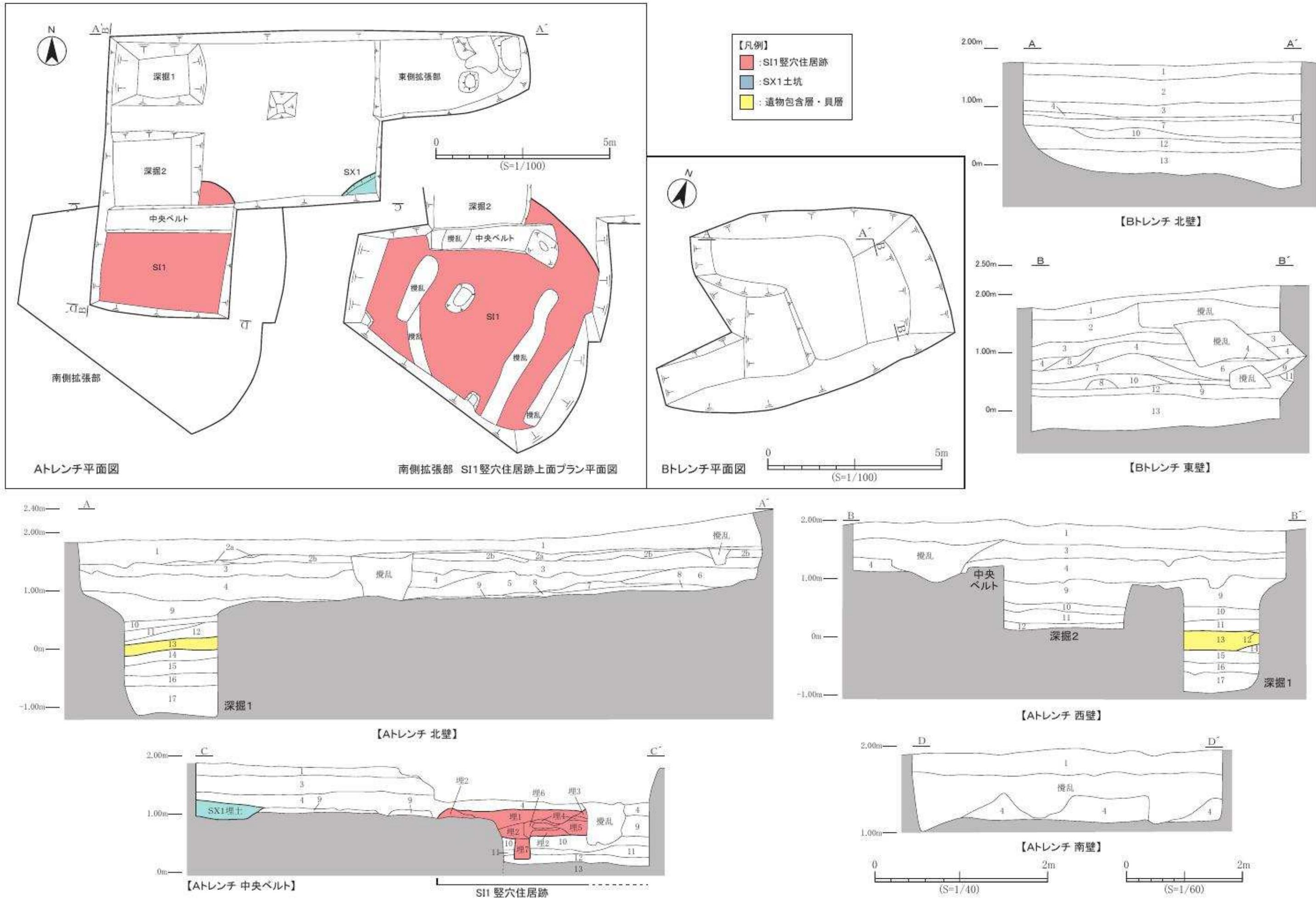
2 調査の方法と経過

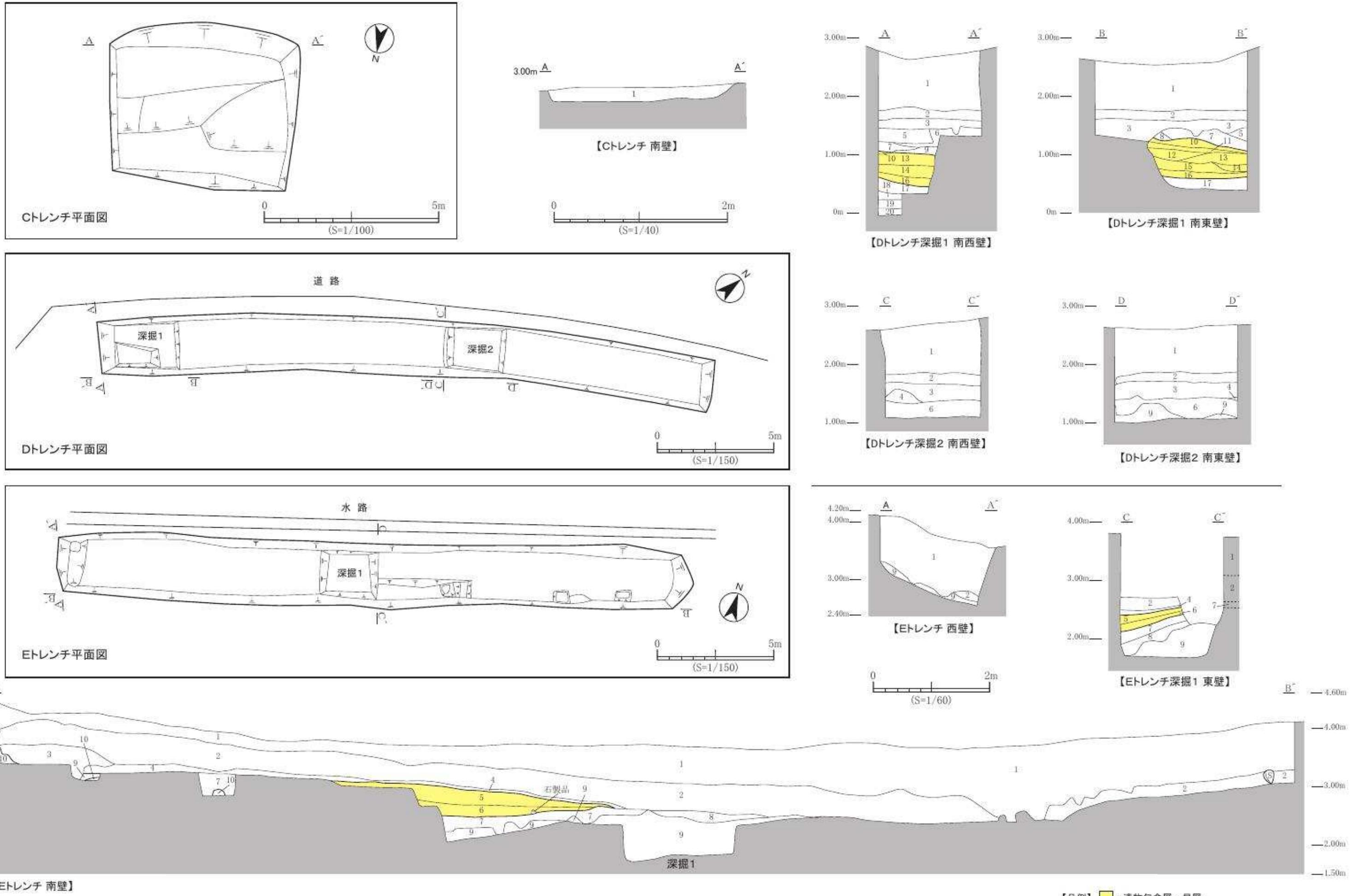
今回の調査は、町道七ヶ浜縦断線の側溝設置工事に伴い実施したものである。過去の調査成果から計画地内において遺構の検出や遺物の出土等が想定されたため、遺構・遺物の有無などを確認するために昭和63（1988）年11月1日～30日に確認調査を実施した。調査では調査用トレントを町道の北西側に3か所（A～Cトレント）、南東側に2か所（D・Eトレント）に設定した（第1図）。今回の調査地点は1・2・4次調査の西側に位置する。

Aトレントは南北約5m、東西約8mの調査区で、町道二月田線との交差点から北西10mの地点に設定した。調査中に遺構を検出したことから南側に約6.5m、東側に約4.5mそれぞれ調査区を拡張した。



第1図 トレンチ配置図





第3図 二月田貝塚C・D・Eトレンチ平面図・断面図

層番号	分類	土質	土色	特徴
埋土層	砂層	シルト質砂	暗褐色	10YR3/4 土器片、径4~6mmの小礫を含む
埋土2層	砂層	シルト質砂	黒褐色	10YR3/2 土器片をわずかに含む。埋土1層より砂が多い
埋土3層	砂層	シルト質砂	暗褐色	10YR3/4 土器片、径4~6mmの小礫を含む。擾乱の影響を受けている
埋土4層	砂層	砂	にぶい黄褐色	10YR4/3 土器片、径4~5mmの小礫を少し含む
埋土5層	砂層	シルト質砂	暗褐色	10YR3/2 土器片をわずかに含む。埋土2層より砂が多い
埋土6層	砂層	砂	にぶい黄褐色	10YR4/3 土器片、小石を少し含む
埋土7層	砂層	砂	黒褐色	2.5YR3/1 細砂で12層より粒径が細かい
SX1埋土	砂層	シルト質砂	黒褐色	10YR-2/2 土器片（製塙土器主体）、凝灰岩粒を含む

第2表 SI1豊穴住居跡・SX1土坑土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1層				土苔、コンクリート
2a層	土層	シルト	にぶい黄褐色	10YR6/4 製塙土器（縄文晩期～奈良・平安）をわずかに含む
2b層	土層	シルト	にぶい黄褐色	10YR7/3 製塙土器（縄文晩期～奈良・平安）を2a層より多く含む
3層	土層	シルト	暗褐色	7.5YR3/3 製塙土器（縄文晩期～奈良・平安）を多量、小石、凝灰岩粒も含む
4層	土層	砂質シルト	黒褐色	7.5YR3/2 製塙土器（縄文晩期～奈良・平安）を多量、小石、凝灰岩粒も含む
5層	土層	砂質シルト	褐色	7.5YR4/4 製塙土器（縄文晩期～奈良・平安）を多量、小石、凝灰岩粒も含む
6層	土層	砂質シルト	暗褐色	7.5YR3/4 貝層（二枚貝主体）、製塙土器、小礫を含む
7層	砂層	砂	暗褐色	7.5YR3/4 縄文の製塙土器。小石を含む
8層	砂層	砂	暗褐色	7.5YR3/4 縄文の製塙土器を含む
9層	砂層	砂	にぶい黄褐色	10YR7/4 縄文土器と縄文の製塙土器を多く含む、小礫を含む
10層	砂層	砂	暗灰黄色	2.5Y5/2 貝殻細片をごくわずかに含む。小石を含む
11層	砂層	砂	黄灰色	2.5Y5/1 製塙土器細片、貝殻細片、礫を含む
12層	砂層	砂	黄灰色	2.5Y6/1 貝殻細片をごくわずかに含む
13層	貝層	砂	灰オリーブ色	7.5Y6/2 貝殻（カキ、有孔貝等）を多量に含む
14層	砂層	砂	灰色	7.5Y6/1 貝殻細片をごくわずかに含む
15層	砂層	砂	灰オリーブ色	7.5Y6/2 貝殻細片をごくわずかに含む
16層	砂層	砂	灰オリーブ色	7.5Y5/2 貝殻（アサリ）を含む
17層	砂層	砂	暗緑灰色	7.5GY4/1 貝殻（アサリ、マテガイ等）を含む

第3表 Aトレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1層	土層	シルト	暗褐色	7.5YR3/3 表土、砂と砂利を含む盃土の整地層
2層	土層	シルト	暗褐色	10YR3/3 摶乱層 土器片、小石粒、礫、トタン、鐵くず等を含む
3層	土層	シルト	黒褐色	10YR2/2 土器片、小石粒、わずかに砂粒を含む
4層	土層	砂質シルト	黒色	10YR2/1 土器片、小石粒、ごくわずかに貝殻片粒を含む
5層	土層	砂質シルト	黒褐色	10YR2/2 わずかに小石粒を含む
6層	土層	砂質シルト	黒褐色	10YR2/3 製塙土器細片、小石を含む
7層	砂層	シルト砂質	黒褐色	10YR3/1 製塙土器、小礫、小石粒、貝殻片粒を含む
8層	砂層	シルト砂質	黒褐色	10YR3/1 ピットまたは柱穴と思われるが、不明確である
9層	砂層	砂	黒褐色	10YR2/2 縄文土器、製塙土器を含み、礫も多く含む
10層	砂層	砂	暗灰黄色	2.5Y5/2 製塙土器、黄灰色の砂、多量の礫を含む
11層	砂層	砂	黄灰色	2.5Y4/1 製塙土器をわずかに含む
12層	砂層	砂	暗灰黄色	2.5Y5/2 製塙土器、黄灰色の砂を含む
13層	砂層	砂	黄灰色	2.5Y5/1 製塙土器を含む

第4表 Bトレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1層	土層			道路基礎工事による擾乱

第5表 Cトレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1層	土層			道路基礎工事による擾乱
2層	土層	砂質シルト	黒褐色	7.5YR3/2 製塙土器細片を多量に含む。貝殻、炭化物粒を少し含む
3層	砂層	シルト質砂	黒褐色	7.5YR2/2 カキを多量に含む。アサリ、縄文土器、製塙土器も含む
4層	砂層	シルト質砂	暗褐色	10YR3/3 ハマグリ、イガイ、カキ、アサリ、製塙土器片を含む。層の下部に灰1cm含む
5層	砂層	シルト質砂	黒褐色	10YR2/2 カキ、アサリ、縄文土器、製塙土器、骨を含む
6層	砂層	砂	褐色	7.5YR4/4 アサリ、殻、縄文土器、製塙土器を含む
7層	砂層	シルト質砂	黒褐色	10YR2/2 アサリ、製塙土器片、礫を含む。灰白色と黒褐色が互層になっている
8層	砂層	砂	灰オリーブ色	7.5Y6/2 カキ、イガイ、アサリ、殻、製塙土器を含む
9層	砂層	砂	灰白色	10Y7/1 アサリ、縄文土器片をわずかに含む
10層	目層	砂	灰白色	5Y7/1 カキを多量に含む。製塙土器片、アサリを少し含む。礫を含む
11層	貝層	シルト質砂	黄褐色	2.5Y5/3 カキを多量に含む。アサリをわずかに含む
12層	貝層	砂質シルト	黒褐色	10YR3/2 カキを多量に含む。大小の巻貝、アサリ、イガイ。製塙土器を含む
13層	貝層	砂	黄褐色	2.5Y5/3 カキを多量に含む。巻貝、アサリ、製塙土器片、礫を含む
14層	貝層	砂	灰色	10Y6/1 カキを多量に含む。アサリ、イガイ、ハマグリ、縄文土器、製塙土器、礫を含む
15層	貝層	シルト質砂	灰褐色	10YR5/2 カキを多量に含む。巻貝、イガイ。製塙土器の小片を含む
16層	貝層	シルト質砂	褐灰色	7.5YR4/1 カキを多量に含む。ハマグリ、製塙土器、礫を含む
17層	砂層	シルト質砂	褐灰色	10YR6/1 カキ、アサリ、ハマグリ、貝殻細片。製塙土器片、炭化物、灰を含む
18層	砂層	砂	灰褐色	10YR4/2 整塙土器片。貝殻片、炭化物粒をわずかに含む
19層	砂層	砂	褐灰色	10YR5/1 製塙土器、貝殻（カキ主体）を多く含む
20層	砂層	砂	黄褐色	2.5Y5/3

第6表 Dトレンチ土層観察表

層番号	分類	土質	土色	特徴
1層				道路基盤工事による擾乱
2層	土層	シルト	暗褐色 75YR3/3	貝殻、礫、繩文土器、製塙土器を含む
3層	土層	シルト	にぶい黄褐色 10YR5/4	礫、土器細片を含む 地山崩落土
4層	土層	シルト	黄褐色 10YR5/6	礫、貝殻、土器細片を含む 地山崩落土
5層	遺物包含層	シルト	黒褐色 10YR3/2	多量の貝殻、骨、礫、繩文土器、製塙土器を含む
6層	遺物包含層	粘土質シルト	黒褐色 10YR2/3	繩文土器、製塙土器、多量の貝殻（巻貝、アサリ、サルボウほか）、骨、礫、炭化物を含む
7層	土層	シルト	黒褐色 10YR3/2	礫、製塙土器、炭化物を含む
8層	土層	粘土質シルト	暗褐色 10YR3/3	炭化物粒、製塙土器、骨、礫、黃褐色の地山崩落土を含む
9層	土層	粘土質シルト	黄褐色 10YR5/6	土器片、礫を多量に含む わずかに炭化物粒を含む 地山崩壊土
10層	地山	シルト	黄褐色 10YR5/8	礫を含む

第7表 Eトレンチ土層観察表

Bトレンチは南北約5.5m、東西約8.5mの調査区で、Aトレンチの北東30mの地点に設定した。Cトレンチは5.5m四方の調査区で、Bトレンチの北東50mの地点に設定した。Dトレンチは南北約2.5m、東西約26mの調査区で、Aトレンチの南東15mの地点に設定した。Eトレンチは南北約2.5m、東西約27.5mの調査区で、Dトレンチの北東23mの地点に設定した。A・D・Eトレンチでは遺構や遺物包含層より下層の状況を確認するために、トレンチ床面の一部をさらに掘り下げた。Cトレンチは重機で道路基盤である表土を除去したところ、直下に地山を確認したため、この時点で調査を終了している。

調査は表土や道路基盤に当たる層（1層）を重機で掘削し、以下を人力により調査を行った。各トレンチの精査後に、写真撮影、遺構平面図、トレンチ平面図、土層断面図の作成を行った。また、写真撮影は6×7カラーフィルム、35mmモノクロフィルム、35mmカラーフィルムを使用した。調査終了後、重機で埋め戻しを行った。尚、調査時はEトレンチをDトレンチと呼称していたが、Dトレンチと約23m離れていることから本報告ではEトレンチに改めた。また、トレンチ外出土遺物として図示した資料（第9～22図・28～36図）は、Dトレンチ南西側の畠地に仮設排水路を設置するために重機掘削した場所（第1図から）出土した遺物で、出土層位が明確でない資料ではあるが、本貝塚の出土遺物の特徴を示す資料であることから合わせて掲載した。

3 発見した遺構と遺物

今回の調査で発見した遺構は竪穴住居跡1棟、土坑1基、遺物包含層などである。遺物は、繩文土器、弥生土器、土師器、須恵器、製塙土器、石器、石製品、骨角牙製品、貝製品などが出土した。

（1）S11竪穴住居跡（第2・4・20・23図 写真図版3、4）

Aトレンチ南側、黒褐色土（4層）の下層で検出した。トレンチ南壁断面で暗褐色土及び黒褐色土の人為的な堆積を確認したため、南側に調査区を拡張し住居跡プランを検出した。平面形は直径6m以上の円形と推定される。住居跡は9・10層を掘り込んで構築されており、竪穴の深さは最大50cmである。堆積土は6層確認し、一部で床面の下層（10層）まで達する攪乱を受けている。トレンチ南壁（中央ベルト）の断面で、柱穴と考えられるピットを1か所確認した（埋土7層）。埋土は黒褐色の細粒砂で、平面形は不明であるが幅30cm、深さ35cmが残存していた。今回は遺構・遺物の有無の確認を主な目的とした確認調査であることから、調査区拡張による平面形の確認とトレンチ南壁（中央ベルト）での断面観察に留め、竪穴の掘り下げ等の精査は行わなかった。このため、炉跡の有無や柱穴の数、床面の状況などは不明である。

出土遺物は少なく、堆積土中から繩文土器の深鉢底部（4図2）、弥生土器の甕（4図1）、製塙土器（20図10）などがわずかに出土している。石器は不定形石器や石核（23図1・2）が出土している。時期比定は難しいが、平面形や出土遺物などから繩文時代晚期～弥生時代中期頃に属すると考えられる。

(2) SX1土坑 (第2・4・23図 写真図版4)

トレンチ南西角、黒褐色土（4層）の下層で検出した。規模・構造は直径1.2m以上、深さは約30cmの円形と推定される。堆積土は黒褐色のシルト質砂の自然堆積層である。出土遺物は堆積土中から斜行縄文の縄文土器片や土師器坏（4図21）、磨石（23図3）が出土している。出土遺物が少なく、時期比定が難しいが、S I 1堅穴住居跡と同様に4層を掘り込んでいることから、縄文時代晚期～弥生時代中期頃と考えられる。

(3) 遺物包含層 (第2・3・5～9・19・20図 写真図版4、5)

i) 堆積状況

遺物包含層はAトレンチ13層、Dトレンチ10～16層、Eトレンチ5・6層に貝殻などの動物遺存体とともに土器や石器などの遺物が多量に含まれている状況を確認したため、この部分を遺物包含層と認識し、調査を行った。これらの堆積土は類似しているが、各層に含まれる貝類等の動物遺存体を含む割合等が異なることから、Aトレンチで検出したものを遺物包含層1、Dトレンチで検出したものを遺物包含層2、Eトレンチで検出したものを遺物包含層3として区分し、個別に出土遺物について説明する。

遺物包含層1は標高0m前後に水平に堆積しており、Aトレンチ北西角の深掘1で検出した。遺物包含層2は標高約0.4～1mにはほぼ水平に堆積しており、Dトレンチ南西角の深掘1で検出した。遺物包含層3は標高約2.1～2.5mに南から北へやや傾斜して堆積しており、Eトレンチ中央部の深掘1で検出した。遺物包含層3は堆積状況からトレンチ南側の丘陵上からの二次堆積層と考えられる。各包含層の分布範囲は調査範囲の制約から把握が難しいが、遺物包含層3についてはEトレンチ南壁断面の観察から、深掘1から東側に4.9m以上の範囲に分布していると考えられる。

ii) 土器

遺物包含層の各層から出土した土器は小破片が多く、器形等が分かるものは少ない。出土した土器の特徴をみると、斜行縄文や羽状縄文など縄文のみが施される土器や無文の土器、製塩土器、器面に粘土粒を貼り付けた貼瘤土器、櫛歯文、入組帶状文、三叉文、雲形文、π字文など様々な文様が施された土器が混在している。

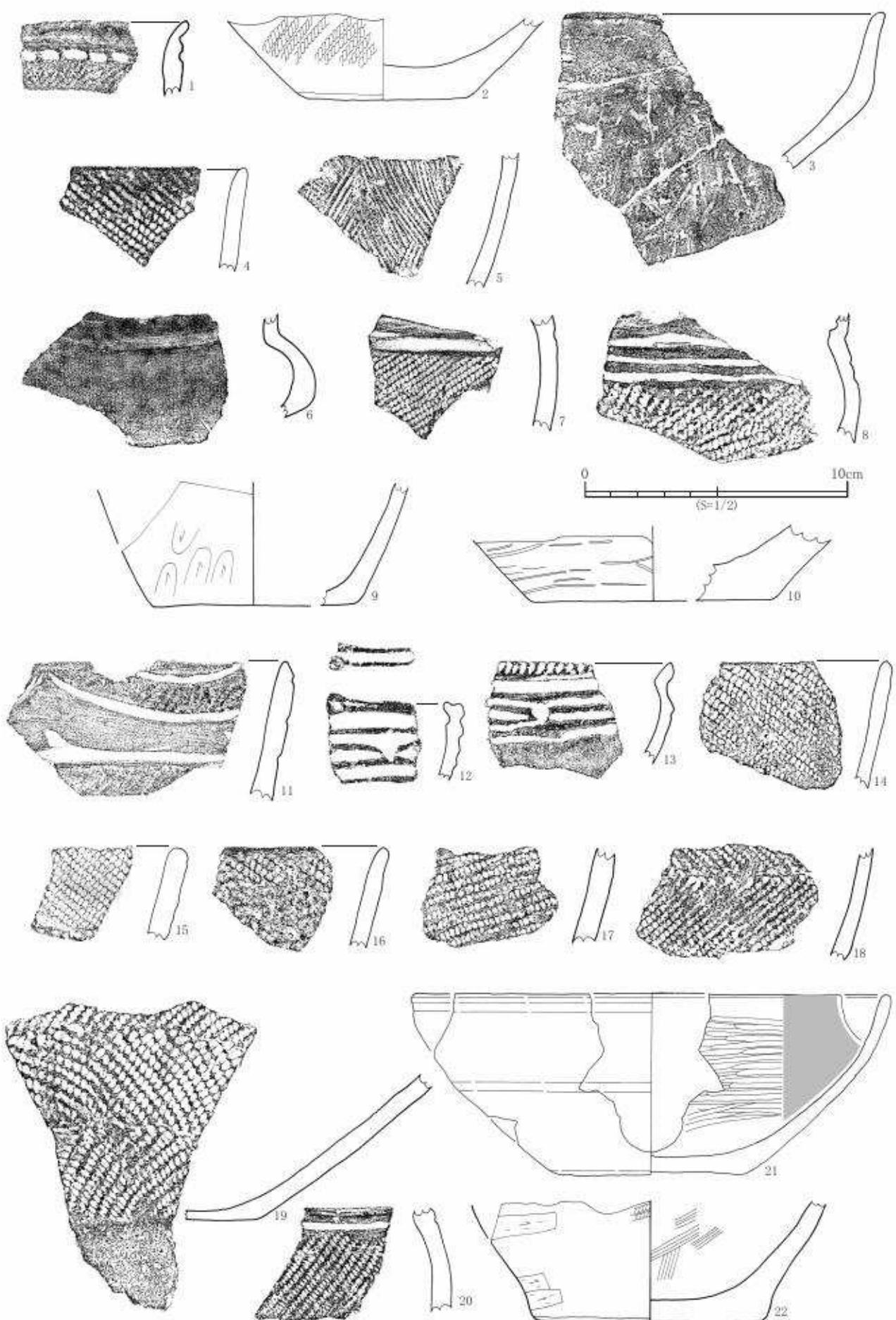
各層共に製塩土器が圧倒的に多く、縄文のみが施される土器や無文の土器がこれに続く。遺物包含層3では貼瘤土器、入組帶状文、櫛歯文、三叉文、雲形文（8図1・2）やπ字文（8図3）が施された土器が出土している。器種は深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器がある。製塩土器は体部が最も多く出土し、底部形態は平底・小平底、丸底、上げ底、尖底のものが出土している。平底のものは底面に木葉痕や網代痕を持つものが見られる。遺物包含層1では、外面に幅5～8mmのヘラケズリ風の調整を縦位または斜位に施した製塩土器が出土している（20図2・3）。

iii) 石器

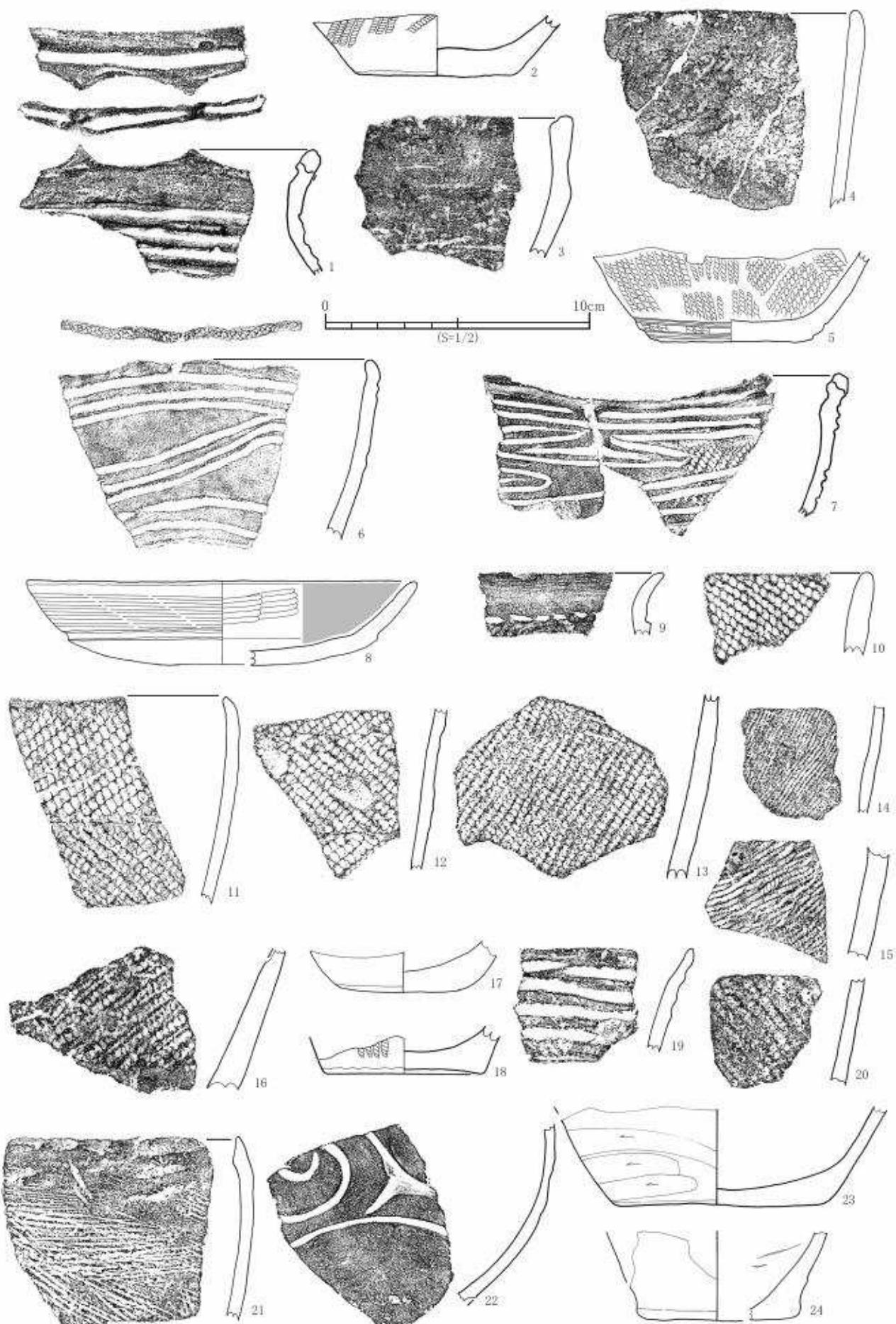
遺物包含層から石鎌、石錐、石匙、楔形石器、剥片・石核、礫石器などが出土したが、その多くは磨石や敲石、凹石などの礫石器である。遺物包含層2では石匙（25図3）が出土し、遺物包含層3では石鎌（26図1）、石錐（26図3・4）、石匙（26図6・7）、楔形石器（26図5）、石核（26図9・17・19）、黒曜石を含む剥片（26図8・10～16・18・20）が出土した。

iv) 骨角製品

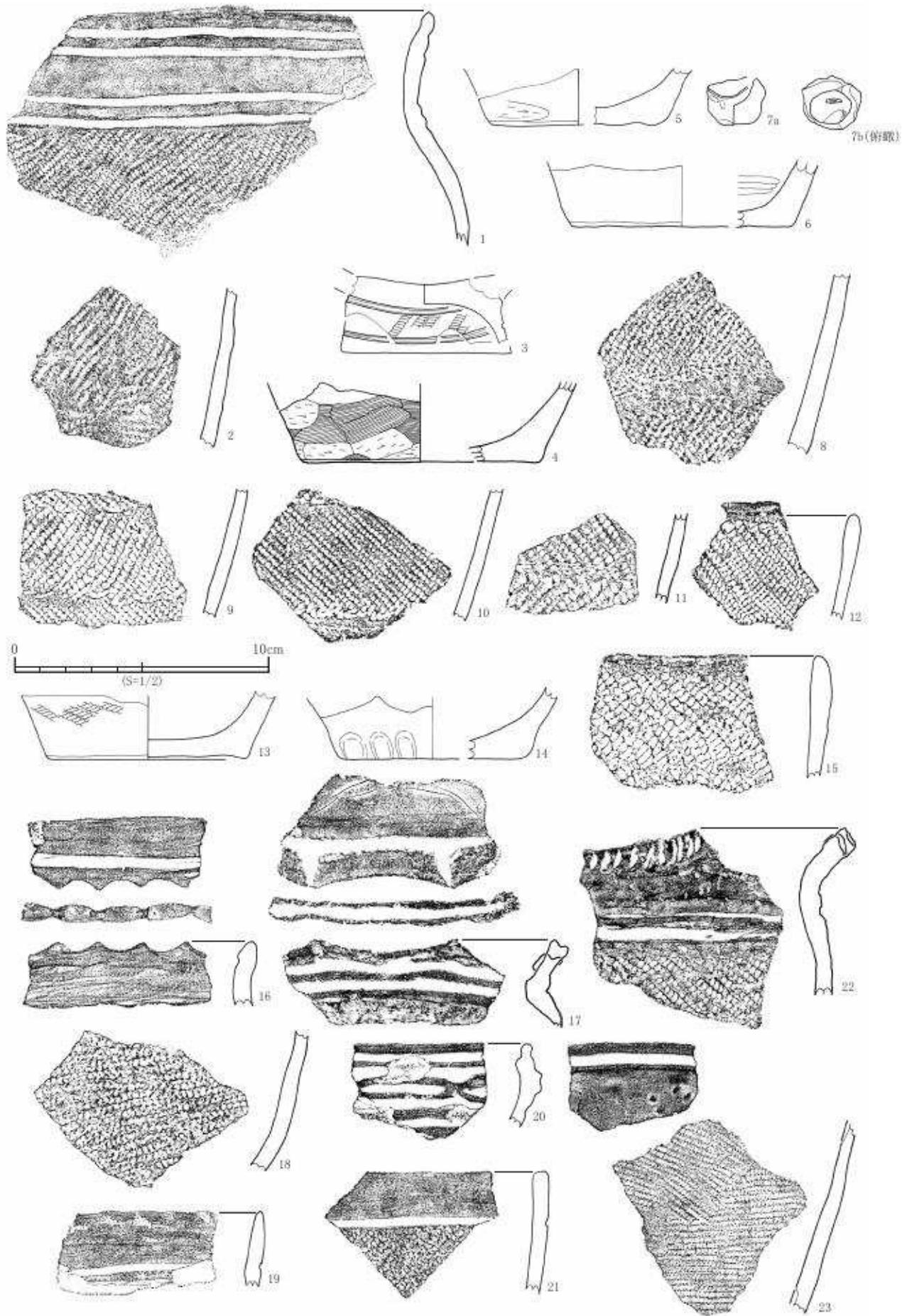
骨角製品は、遺物包含層3からシカの中手骨を加工した骨箋（32図6）が1点出土した。箋先は欠損しているが、骨を縦に半截する際のくさび状の痕跡が残っている。



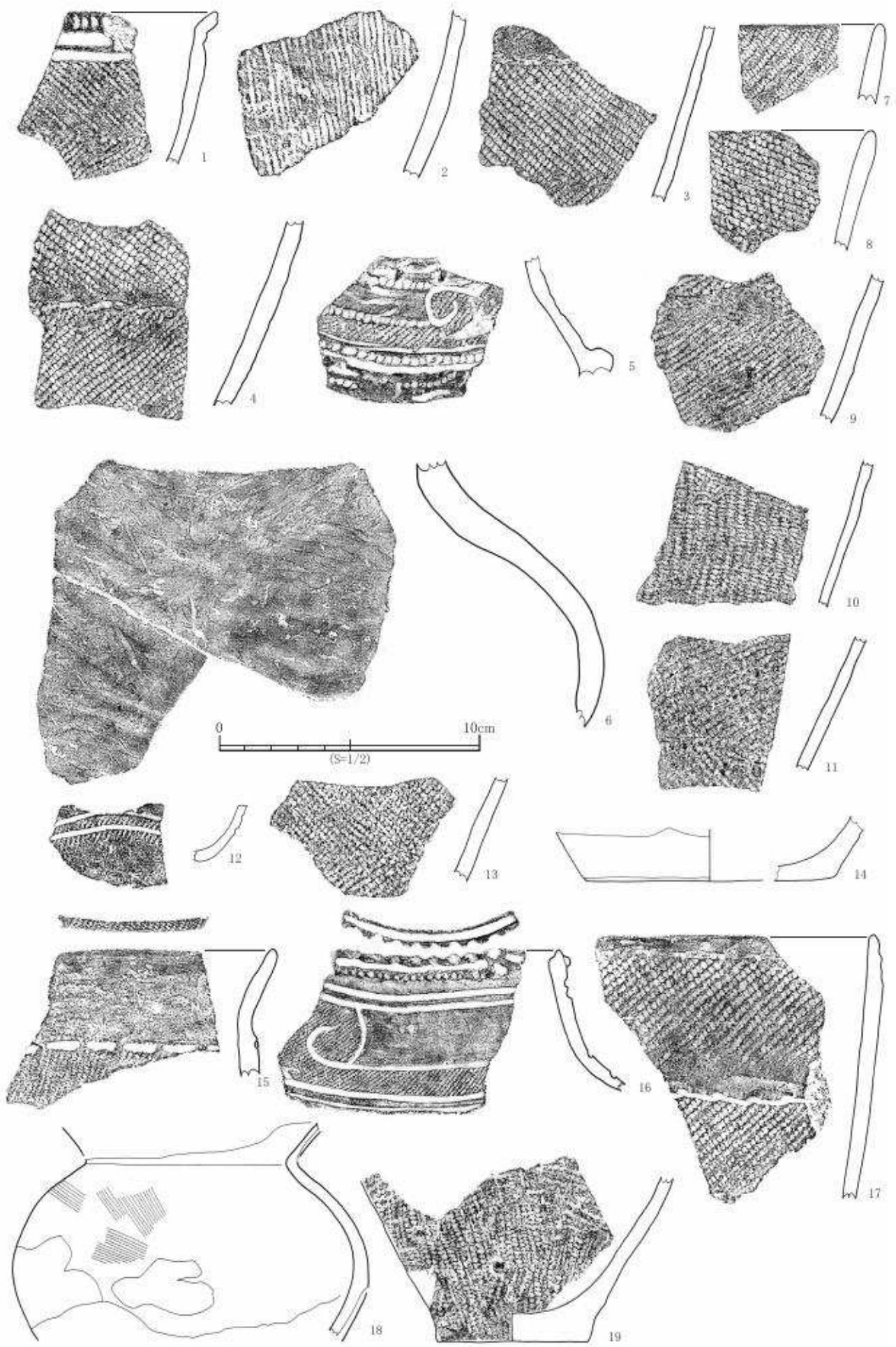
第4図 Aトレンチ出土土器



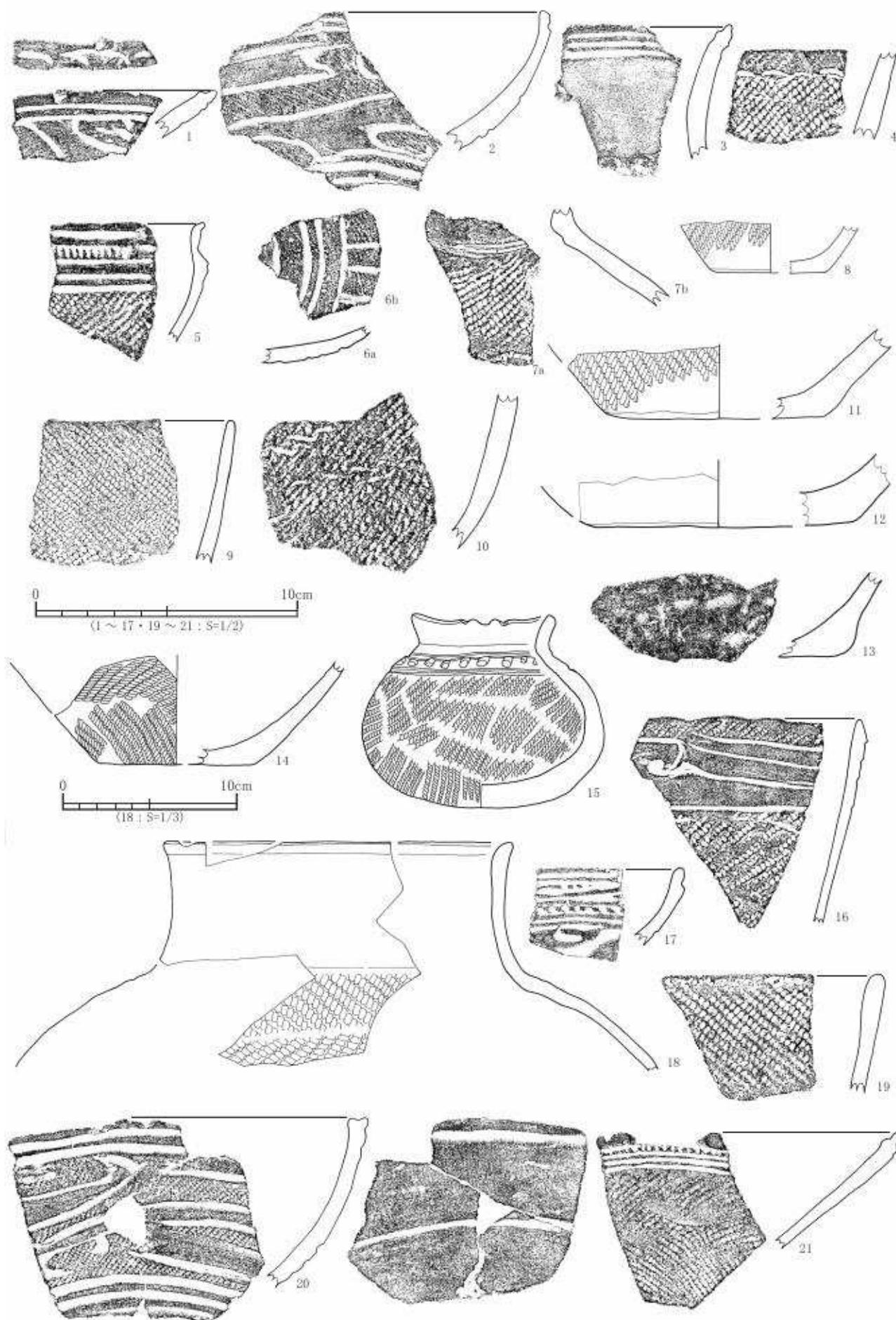
第5図 A・Bトレンチ出土土器



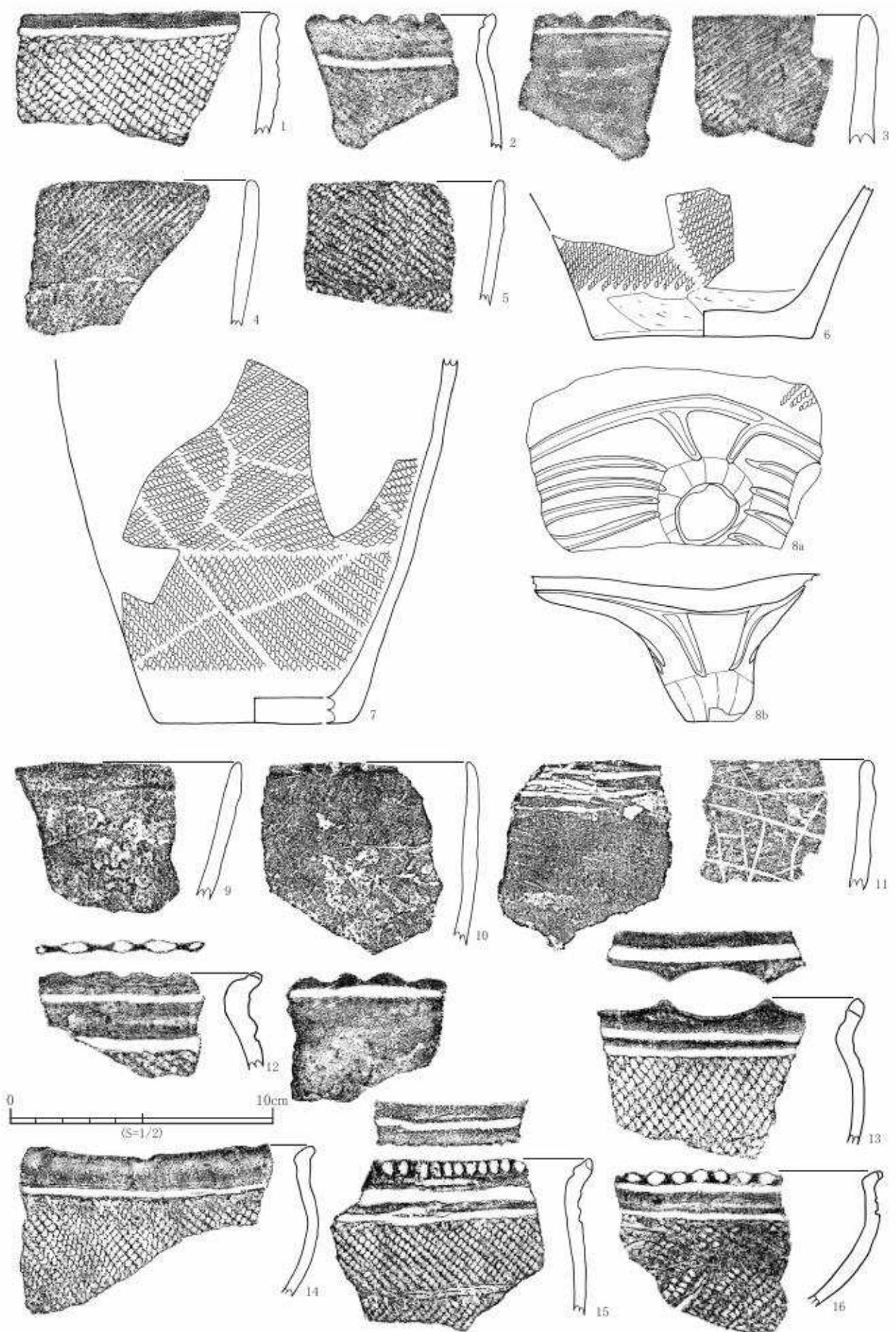
第6図 Dトレンチ出土土器 (1)



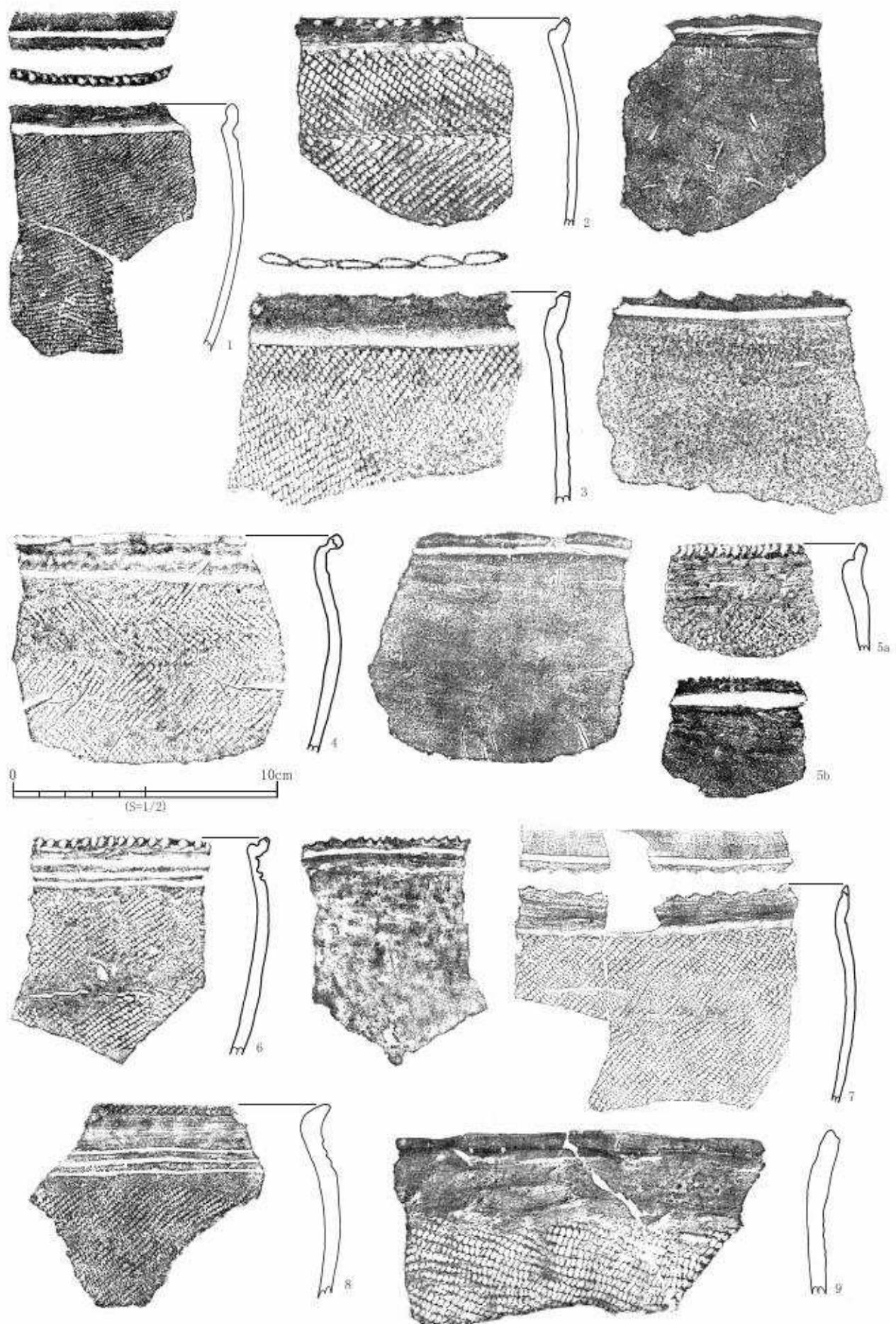
第7図 Dトレンチ出土土器 (2)



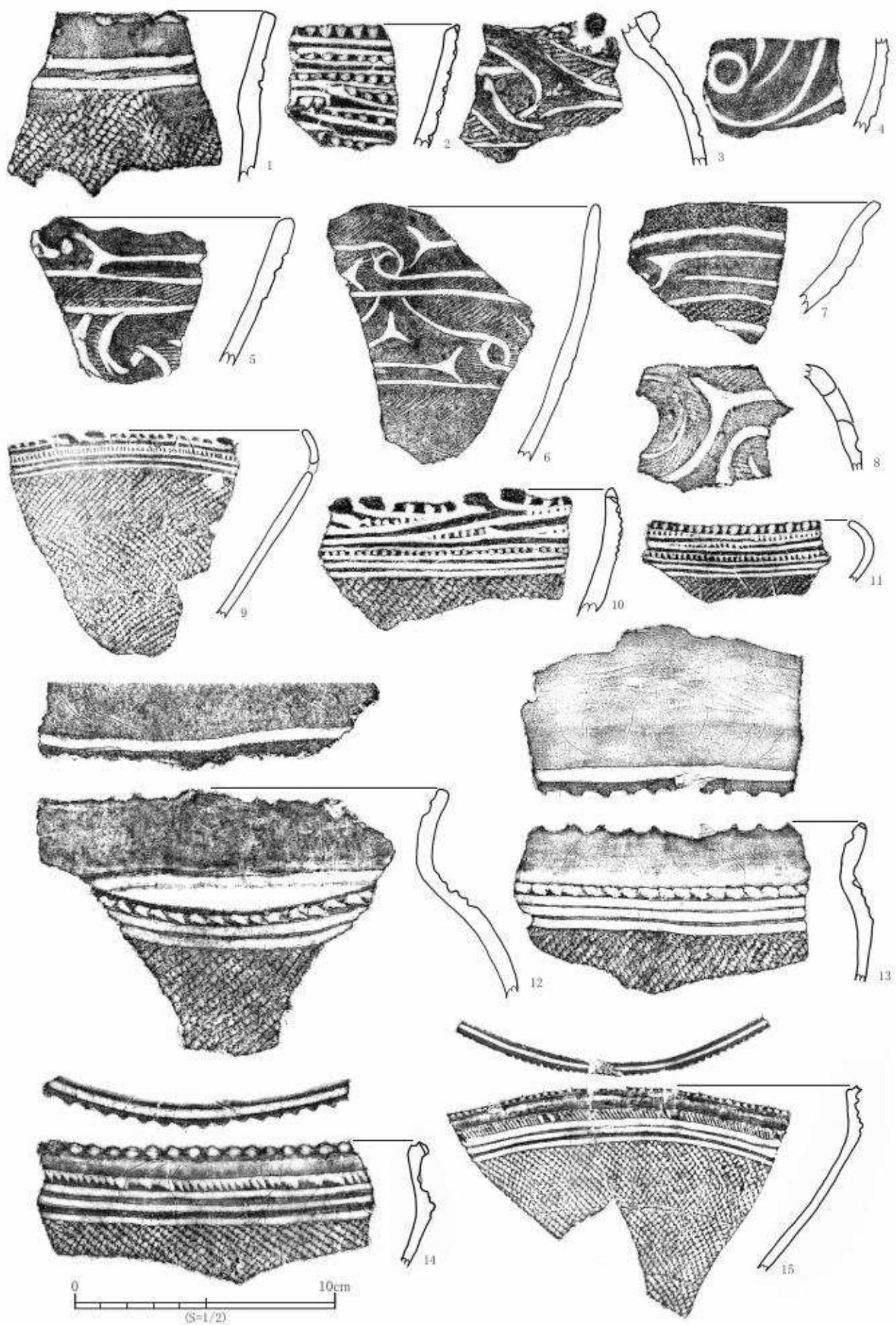
第8図 Eトレンチ出土土器



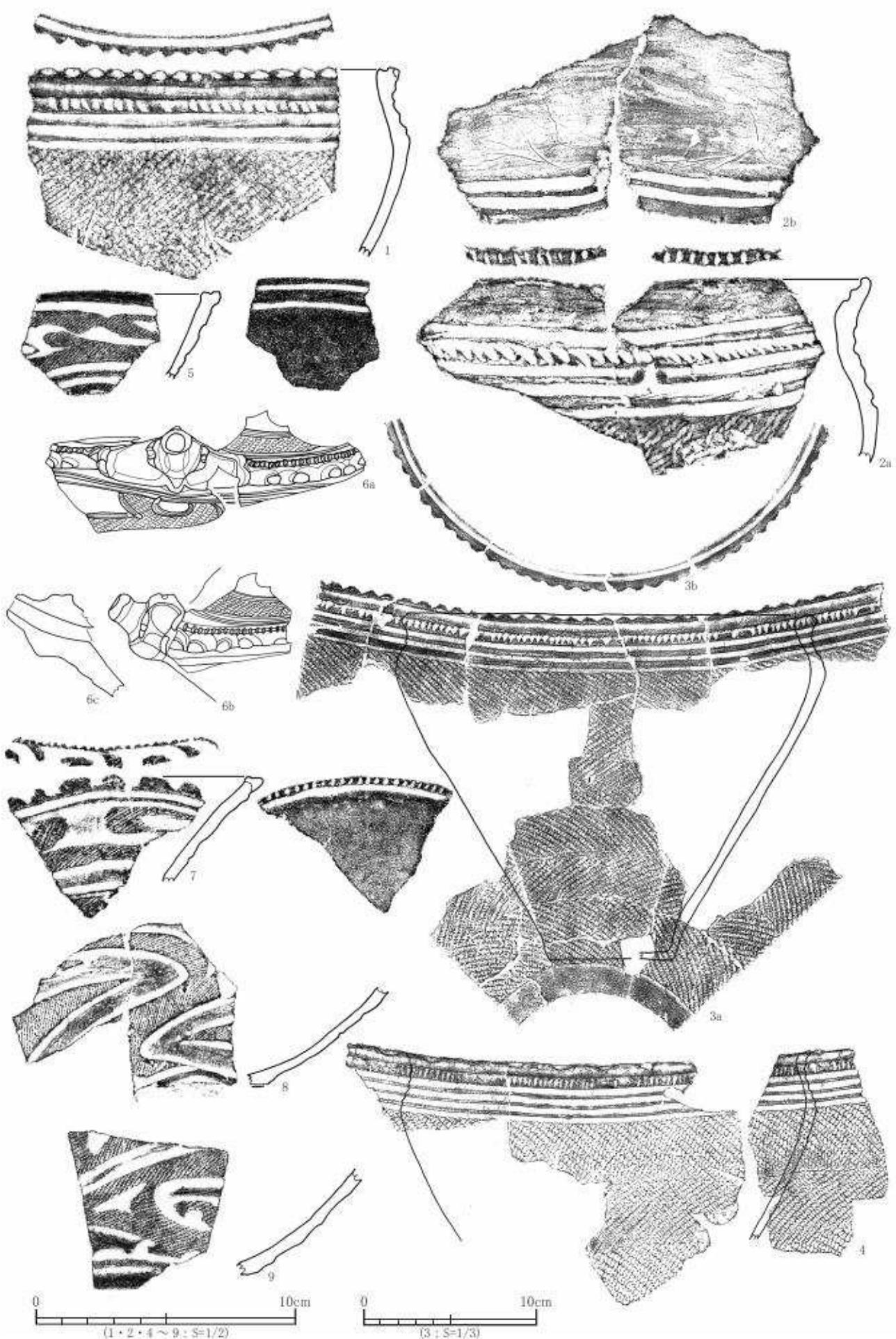
第9図 Eトレンチ・トレンチ外出土土器



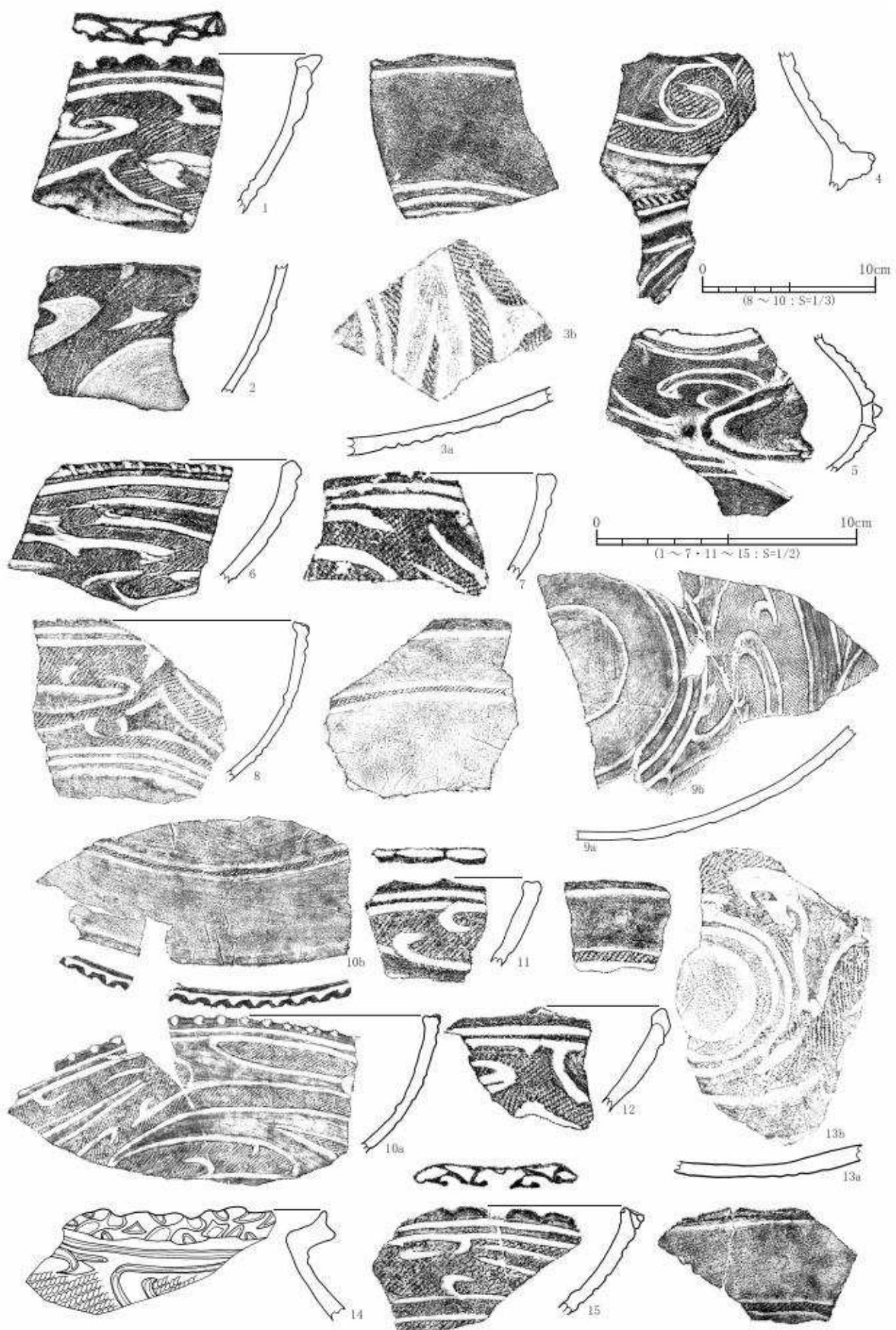
第10図 トレンチ外出土土器 (1)



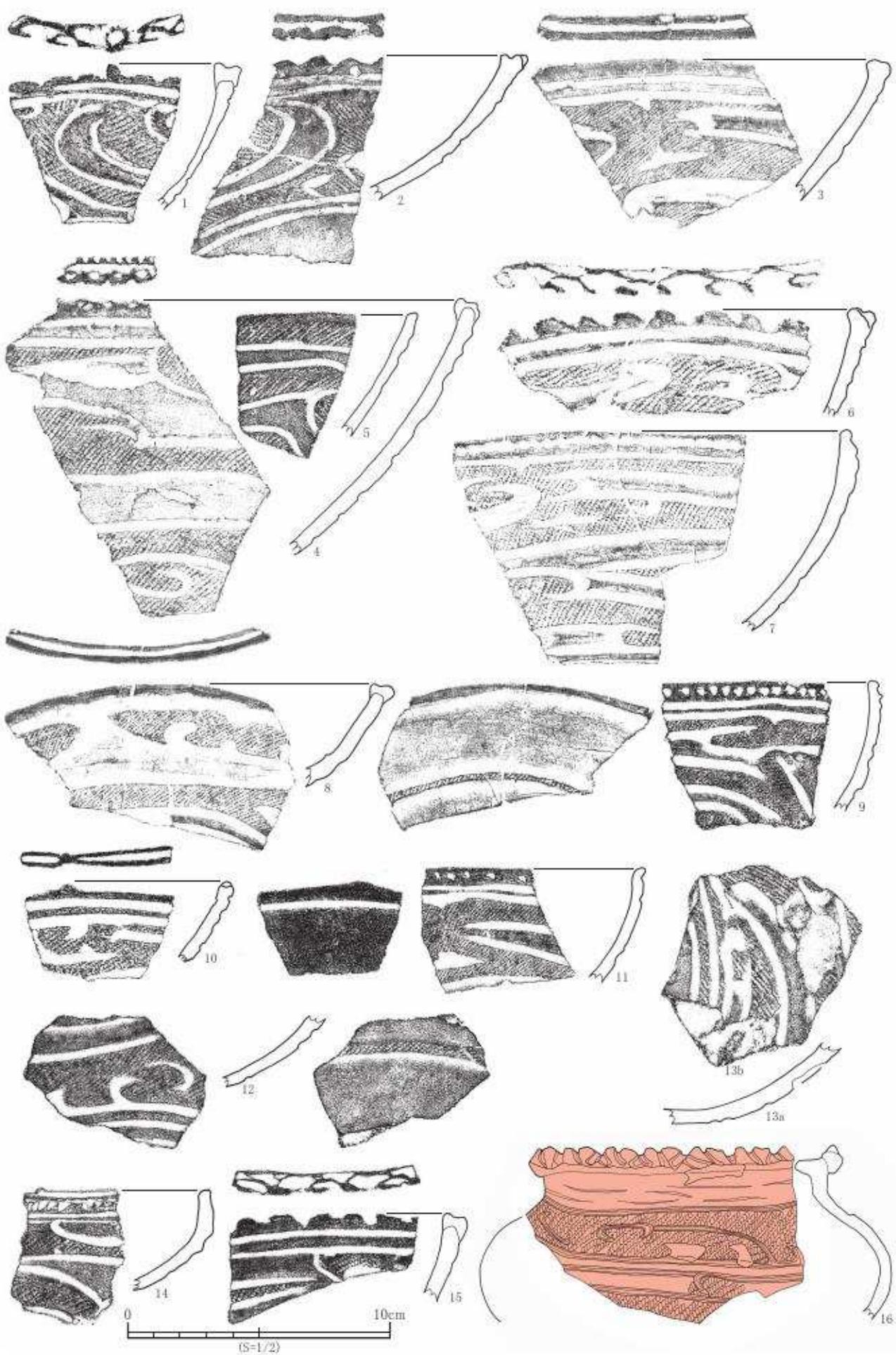
第11図 トレンチ外出土土器 (2)



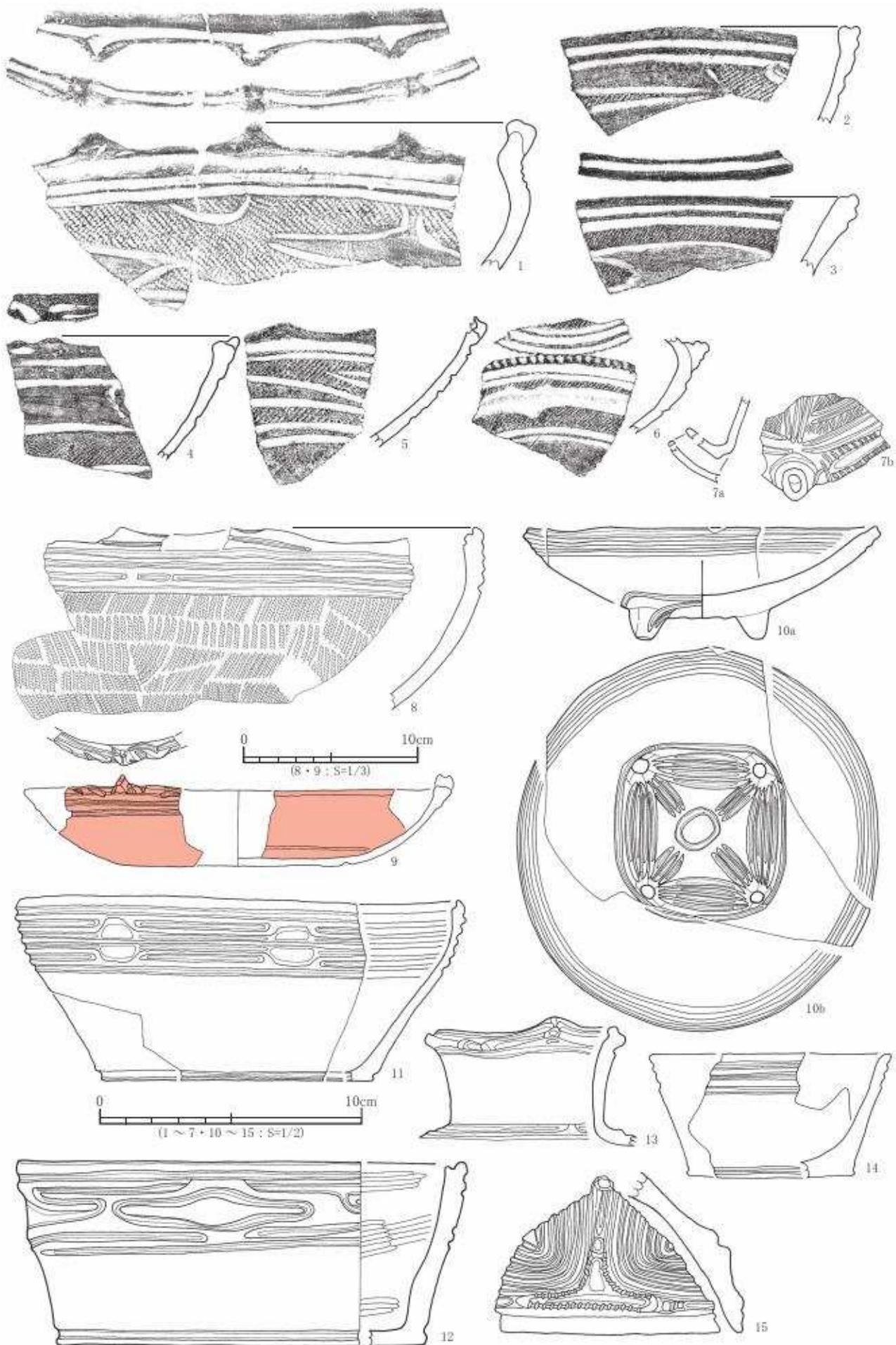
第12図 トレンチ外出土土器 (3)



第13図 トレンチ外出土土器 (4)



第14図 トレンチ外出土土器 (5)



第15図 トレンチ外出土土器 (6)